

高等部教育目標	
イエス・キリストを通して、人と世界に仕える使命感と実力を養い、豊かな心と真摯な態度を備えた人格を培う	
探究型カリキュラム教育/学習目標	
SDGsの達成を目指し、Mastery for Serviceを体現する世界市民の一員として、国内外の社会に自ら関わり貢献できる力を育成する/身につける	
探究型カリキュラムにおける5つの学びの方針 Five Principles for Learning	
1. 自分事として <オーナーシップ/一人称>	2. 社会/実践を通して <PBL型/アクション>
3. 知識を大事に <自ら得る知識/高める関心>	4. コミュニケーションを通して <自分/他者のやりとり>
5. 生徒・教員が共に <共に探究する関係性>	
上位学習目標	
【知識・技能】	
<ul style="list-style-type: none"> 社会で用いられているAI等のテクノロジーが持つ機能や役割、実例などの基礎的な情報を自分の言葉で説明することができる 簡単なプログラムを使って実際にAIを動かすことができる 	
【思考力・判断力・表現力】	
<ul style="list-style-type: none"> 社会的課題について調べ、AI等のテクノロジー活用した解決方法を提案することができる AIが人々、社会にとって正しく活用されるための倫理的判断をすることができる テクノロジーが人間個人、社会に与える影響を考察することが出来る 上記事項について、他者に適切に提示/説明することができる 	
【学びに向かう力・人間性】	
<ul style="list-style-type: none"> AIや新たな技術開発、イノベーションについてより深く知ろうとし、それをういて解決しようとする姿勢を持つことが出来る 社会的課題に向き合う中で、AIなどに代表されるテクノロジーと上手に共生する必要があることに気づき、人間の本来の生き方について追求することができる 	
下位学習目標	
【知識・技能】 再考する余地あり！！！！	
①実際にAIを社会で活用する人を通じて、社会で用いられている実践的なAI活用に関わる知識を獲得することができる	
②社会課題解決のために、2年でAIを動かした経験と、社会課題に関わる客観的なデータを基にAIを活用した具体的な提案をすることが出来る	
【思考力・判断力・表現力】	
①AIを活用した社会課題の解決案について、議論などを通じて他者と協働して創造することができる	
②AIを活用した社会課題の解決案について、倫理的な判断を加味することができる	
【学びに向かう力・人間性】	
①AIを活用した社会課題の解決案について、他者に分かりやすく提示し、他者の考え方や生き方に影響を与えることができる	
②AIや新たな技術開発、イノベーションについて、自発的に調べ知識を追い求めることができる	
③社会課題に向き合う中で、AIなどに代表されるテクノロジーと上手に共生する必要があることに気づき、自分の生き方について追求することができる	

授業日	5/14(火)	1 学期授業回数	4 回目 / 全 9 回																								
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】① 【思考力・判断力・表現力】①【学びに向かう力・人間性】①② 本時の具体的な目標 ・ AI をビジネスに活用している企業について協働して調べることが出来る																										
時間 授業内容	10 80	AI 活用入門講座の動画「AI ビジネスに活用している企業」について的小テスト グループワーク： 1) 発表日: 5/28(火) 2) 発表時間：4分 3) 発表形式：4つのスライド 概要 / 課題 / ソリューション / 効果 4) ルール： 概要スライド：1名が担当 「課題」「ソリューション」「効果」は各スライド1名が担当 5) 評価方法の説明：相互評価の中からインパクト賞も選出 6) 「文系 AI 人材になる」のコピーを配布																									
評価方法	発表ルーブリック <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2">観点1 企業が導入しているAIの概要「課題」「ソリューション」「効果」の説明の明確さ</td> </tr> <tr> <td style="width: 5%;">A</td> <td>企業が抱える「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」の全ての項目の説明が大変明確である</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>企業が抱える「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」の全ての項目の説明がある程度明確である</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>企業が抱える「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」のいずれかの項目の説明が不十分である</td> </tr> <tr> <td colspan="2">観点2 発表内容のインパクト</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>発表内容について、「おっ」「すごい」「そうなんだ」と聴衆に思わせるインパクトに溢れている</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>発表内容について、「おっ」「すごい」「そうなんだ」と聴衆に思わせるインパクトが少しある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>発表内容について、インパクトがあまりない</td> </tr> <tr> <td colspan="2">観点3 発表の仕方「熱意」</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>発表者の声量や視線からこの課題に対する熱意が全員から強く感じられる。</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>発表者の声量や視線からこの課題に対する熱意がある程度感じられる</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>発表者の声量や視線からこの課題に対する熱意があまり感じられない</td> </tr> </table>			観点1 企業が導入しているAIの概要「課題」「ソリューション」「効果」の説明の明確さ		A	企業が抱える「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」の全ての項目の説明が大変明確である	B	企業が抱える「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」の全ての項目の説明がある程度明確である	C	企業が抱える「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」のいずれかの項目の説明が不十分である	観点2 発表内容のインパクト		A	発表内容について、「おっ」「すごい」「そうなんだ」と聴衆に思わせるインパクトに溢れている	B	発表内容について、「おっ」「すごい」「そうなんだ」と聴衆に思わせるインパクトが少しある	C	発表内容について、インパクトがあまりない	観点3 発表の仕方「熱意」		A	発表者の声量や視線からこの課題に対する熱意が全員から強く感じられる。	B	発表者の声量や視線からこの課題に対する熱意がある程度感じられる	C	発表者の声量や視線からこの課題に対する熱意があまり感じられない
観点1 企業が導入しているAIの概要「課題」「ソリューション」「効果」の説明の明確さ																											
A	企業が抱える「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」の全ての項目の説明が大変明確である																										
B	企業が抱える「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」の全ての項目の説明がある程度明確である																										
C	企業が抱える「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」のいずれかの項目の説明が不十分である																										
観点2 発表内容のインパクト																											
A	発表内容について、「おっ」「すごい」「そうなんだ」と聴衆に思わせるインパクトに溢れている																										
B	発表内容について、「おっ」「すごい」「そうなんだ」と聴衆に思わせるインパクトが少しある																										
C	発表内容について、インパクトがあまりない																										
観点3 発表の仕方「熱意」																											
A	発表者の声量や視線からこの課題に対する熱意が全員から強く感じられる。																										
B	発表者の声量や視線からこの課題に対する熱意がある程度感じられる																										
C	発表者の声量や視線からこの課題に対する熱意があまり感じられない																										
宿題指示	発表準備																										